

スクリーンセーバー「ふらふらクロックセーバーDX」

【はじめに】

このたびは「ふらふらクロックセーバーDX」をダウンロードしてくださりありがとうございます。本ソフトウェアは拙作のふらふらクロック、ふらふらクロックセーバーを大幅に改良したデラックス版のスクリーンセーバーです。お使いのPCのソフトウェア構成(OS、OpenGLのバージョンなど)やハードウェア構成(CPU、グラフィックカードの種類・有無)によっては、折角ダウンロードしていただいたのにもかかわらずソフトがうまく動作しない可能性があります。**最初にお使いのコンピュータの環境で動作するかどうかを以下の手順に従って確認**のうえインストールしてください。動作確認をせずにインストールした場合、最悪の場合システムがクラッシュすること考えられます。**本ソフトはフリーソフトであり、使用によって生ずるいかなる損害に対しても当方は責任を負うことは出来ませんので十分注意してご使用ください。**

動作確認は以下の環境で行っています。

OS: Windows XP Home Edition

PC: Dell Dimension 4700C

CPU: Pentium IV 2.8GHz

メモリ: 1GB

グラフィックカード: ATI RADEON X300

なお、同一構成でグラフィックカードのみを持たない機種(オンボードグラフィックチップを使用)ではCPUへの負荷が大きいうで、ふらふらクロックは表示されるものの、1秒ごとに秒針が進むという本来の動作さえしませんでした。このことからソフトの動作・不動作はCPUの速度というよりも、グラフィックカードの有無が関係していると考えられます。

【動作の確認方法】

まず、解凍されたフォルダ内(図1)の中にあるスクリーンセーバー本体の FuraCloSaverDX.scr を右クリックしてメニューをポップアップさせ「テスト」を選択してください。マウスボタンを離した直後にマウスのポインタが動くとともにテストが終了してしまうのでボタンから指を離すなどの際にはマウスが動かないようにご注意ください。うまくテストに移行できた場合、スクリーンセーバーが表示されます。このとき、以下をご確認ください。

- 1) ふらふらクロック(目覚まし時計)が表示されている
- 2) 秒針が1秒毎に進んでいる
- 3) ふらふらクロックがふらふらと画面内を移動している

これらに問題がある場合、残念ながらお使いのPCの環境では本ソフトは適切に動作しないと考えられます。このような場合はご使用をおやめになり、本ソフトを削除してください。ご使用の環境でこのテストを無事にパス出来た場合、次項の各種設定へ移ります。

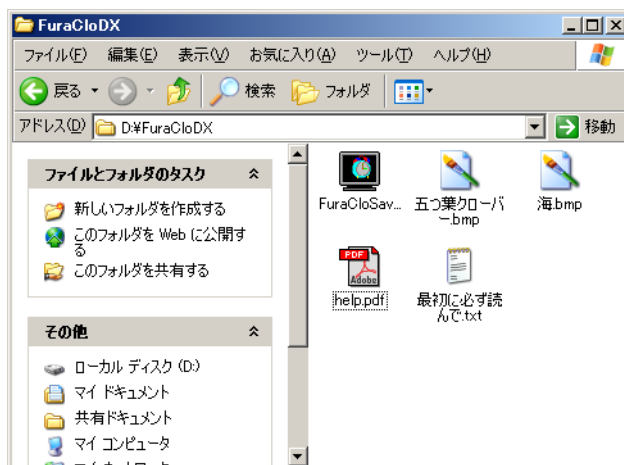


図1 解凍されたフォルダの中身

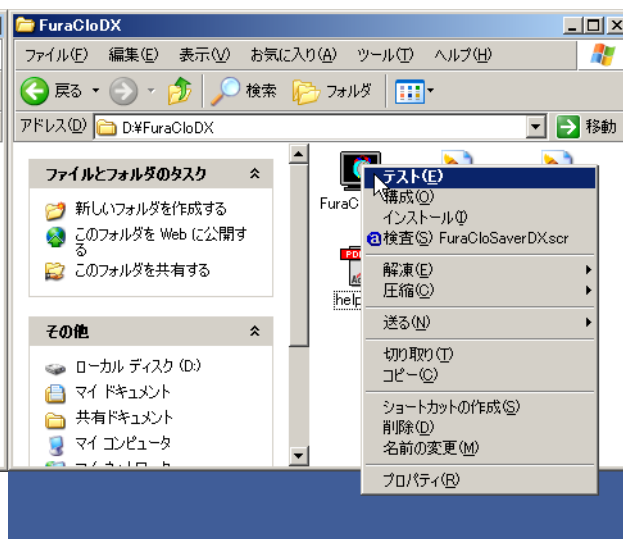


図2 ポップアップメニューの表示と「テスト」の選択

【各種設定項目の説明】

図2と同様にポップアップメニューを表示させ、構成を選択します(図3)。すると、スクリーンセーバーを動作させるための設定ダイアログが表示されます(図4)。

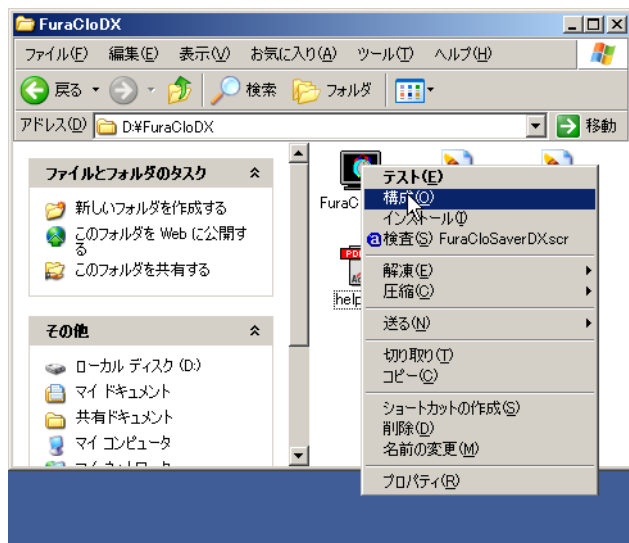


図3 ポップアップメニューの表示と構成の選択

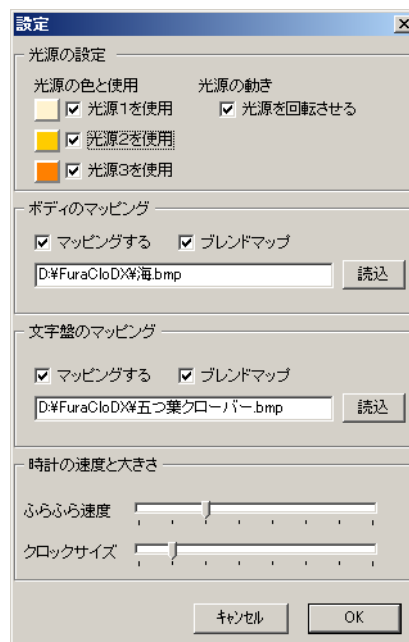


図4 設定ダイアログ

◎各設定項目の説明

1) 光源の設定

光源は最大3つまで使用することができます。各光源はそれぞれ90度に直交していて、クロックを照らしています。各光源の光源色は図5の赤い枠内の色のついたパネルをクリックして自由に設定できます。また、光源を使用するかどうかは図5の緑の枠内のチェックボックスにチェックして設定できます。また、光源をクロックの周りを衛星のようにくるくると回すことができます。そのように設定するには青い枠内のチェックを入れてください。

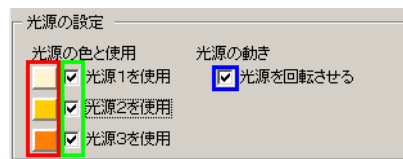


図5 光源の設定

2) 画像のマッピングの設定

クロック本体と文字盤にお好きな画像をマッピングすることができます。画像は **512 画素×512 画素のサイズで 24ビットのビットマップファイル(*.bmp)** にしてください。JPEG や GIF などには対応しておりません。画像をマッピングするかどうかは図6の赤い枠内のチェックで決定してください。緑の枠内のチェックは光源色を画像に反映させるかどうかを決めるものです(チェックで反映)。マッピングするファイルは青い枠内の読み込みボタンを押してファイルを選んでください。

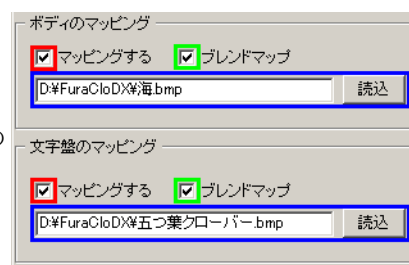


図6 画像マッピングの設定

3) クロックの動作、表示サイズの設定

クロックのふらふら動く速度と表示サイズを変更できます。動作速度は図7の赤い枠内のスライダを動かして変更できます。左へ動かすと動作速度が遅く、右へ動かすと速くなります。表示サイズはスライダを左へ動かすと小さく、右へ動かすと大きくなります。

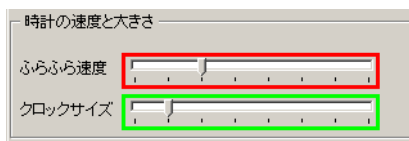


図7 動作速度表示サイズの設定

これらの設定を行ってもソフトとグラフィックカードとの相性、あるいは、OpenGLのバージョンによっては意図したように動作しないこともあります。また、高機能にするほど(マッピングをON、大きなクロックを速く動かすなど)当然CPU

あるいはグラフィックカードへの負荷が大きくなりますので動作が遅くなったり、CPUファンが回りっぱなしになったりということがあります。十分留意してご利用ください。

【インストール法】

通常のスクリーンセーバーと同様にインストールしてください。あるいは、図2のようにスクリーンセーバー本体を右クリックして「インストール」を選択してインストールします。

【その他注意事項】

本ソフトは各種設定を次回の起動時に読み込むためにレジストリに設定項目を保存しております。保存されるレジストリのキーは「HKEY_CURRENT_USER\Software\FuraCloSaverDX」になります。

【ギャラリー】

以下の画像はスクリーンセーバー起動時にプリントスクリーンボタン(PrintScreen)を押してスクリーンキャプチャを行ったものです。いろいろお試しください。



【開発環境】

開発PCは既出のとおり。

開発言語: Borland Delphi + GLScene (OpenGLを使用)

【作者】

ハンドルネーム: つみん

e-mail: dqh05445@nifty.ne.jp

要望などあったらメールにて。